

中東情勢緊迫化で金融市場に新たなリスク？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 中東情勢緊迫化で原油先物急伸

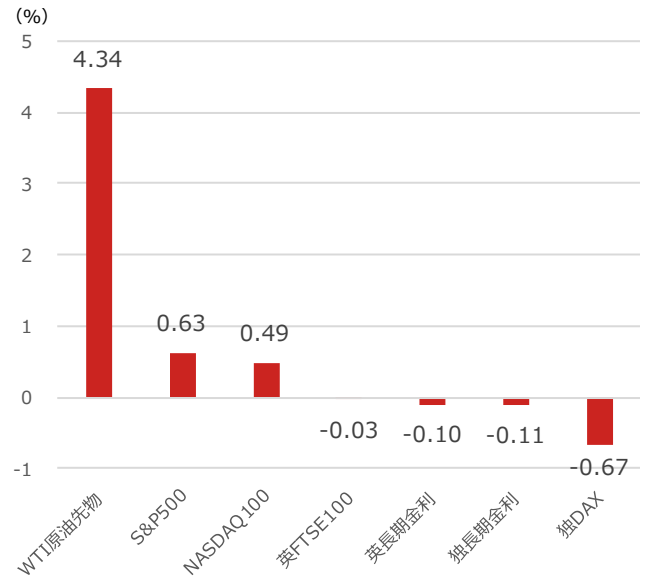
パレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスは7日、イスラエルへの大規模攻撃を開始しました。世界の石油供給量の3分の1近くを占める中東情勢が緊迫化したことを受けて、9日のWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物価格は前週末比4.3%高の1バレル86.38米ドルと急伸しました。米ウォール・ストリート・ジャーナルは8日、「イランが数週間にわたり、イスラエルへの攻撃計画を支援していた」と報じるなど、今後の展開次第ではイランへの経済制裁により原油供給が減る可能性もあり、原油高となりやすい環境が続くとみられます。もっとも週明け9日の世界の金融市場では株式が底堅く推移し、独英の長期金利が低下するなど、パニック的な動きとはなりませんでした（右上図）。

ポイント② 中東情勢緊迫化の影響は限定的か

イスラエルとハマスの戦闘が大規模となれば、7週間にわたって戦闘が続いた2014年以降のこととなります。ただ、当時を振り返ると、世界株や原油先物相場に与えた影響は限定的でした。今回も中東情勢の緊迫化が世界に広がるような危機的状況にならなければ、市場への負の影響は限られそうです。

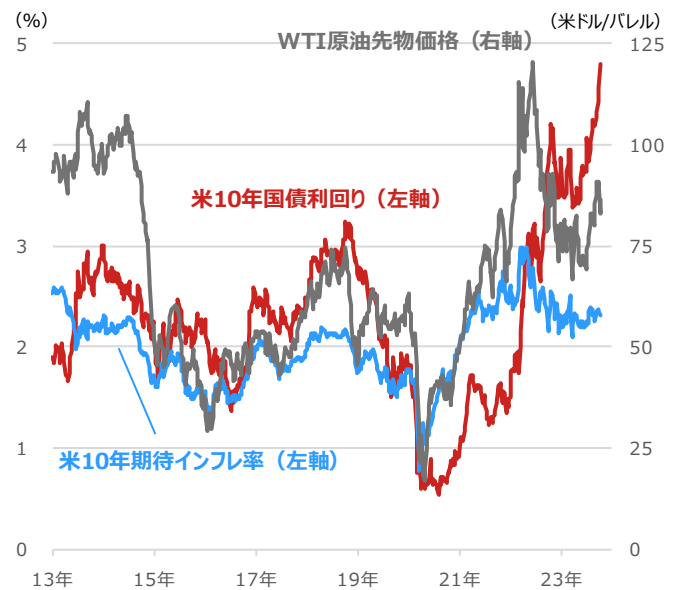
市場の一部では原油高を背景に物価高が再び勢いづけば、世界的な追加利上げや長期金利上昇への懸念を高めることにつながるとみる向きもあります（右下図）。しかし米国や欧州では基調的な物価動向を表すコアCPI（消費者物価指数）が鈍化基調にあり、期待インフレ率も抑制傾向にあります。米欧金融当局高官の一部が一段の引き締めに慎重姿勢を示していることが投資家心理を支えており、現時点では中東情勢が世界の金融市場に与える影響は限られるといえそうです。

主要国株価指数・同長期金利・WTI原油先物価格の騰落率と変化幅（10/6比）



期間：2023年10月6日～2023年10月9日、日次
 ・独英長期金利は各国のジェネリック10年国債利回りを用いた
 ・10月9日の米債券市場はコロナプデーのため休場
 ・株価指数とWTI原油先物は騰落率、長期金利は変化幅
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米10年国債利回り・期待インフレ率とWTI原油先物価格



期間：（WTI原油先物価格）2013年1月4日～2023年10月9日、週次
 （その他）2013年1月4日～2023年10月6日、週次
 ・米10年期待インフレ率＝米10年国債利回り－米物価連動国債（10年）利回り
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。